FOOT LIFE GOOD LIFE

― 足もと健康サポートねっと通信 ―　Vol.9

NPO法人 足もと健康サポートねっと | http://ashimotokenko.com

『NPO法人 足もと健康サポートねっと』10周年を迎えて

2021年に『NPO法人 足もと健康サポートねっと』は10周年を迎えることが出来ました。これまで福岡・九州地区の小さな活動ではありましたが、10周年を記念して「これまでの10年、これからの10年」と題し、これまでの活動を振り返り、NPOメンバーそれぞれの思いについてご紹介させて頂きます。

理事長 竹内 一馬（医療法人たけうち 六本松足と心臓血管クリニック 院長）

我々「NPO法人 足もと健康サポートねっと」の思い

足の健康を維持し、トラブルを未然に防ぎ歩行を守ることは、我々NPOの使命のひとつです。NPO設立以前は2年間ほど異業種活動として、医師、看護師、義肢装具士、靴店店主、イベント会社などが集まり、各業種におけるトピックスの発表、イベントの企画立案、医療的な勉強会などを定期的に開催し活動を続けてきました。そしてフットケア・足病関係の研究会、市民公開講座の主催などの経験を重ねていくうちに、「今まで以上に社会に貢献できるような活動を行いたい!」というメンバー各々の熱意が高まり、自然とNPO設立の話が持ち上がりました。我々のNPOは福岡・九州の医療関係者と地域の靴屋、フットケアサロンなどが良好な連携を図ることで、足に悩みを持った方々の問題解決をサポートできるようになることを理念に2011年3月に「NPO法人足もと健康サポートねっと」として認可されたのです。

足病の予防や治療は、まだまだ市民に認知されていない領域であり、重症化してから医療機関を受診する事例が後を絶たないのが現状です。そこで我々NPOの啓発活動で、市民が少しでも足に関心を持ち足病の早期発見につながり重症化を少しでも減らすことになればと願っています。さらに我々のNPOメンバーは、診療科や地域の職種の異なる足のプロフェッショナルをつなぐ役割も使命であると考えています。

人・形を残す10年に

これまでのNPO活動を振り返ると、個人的には新型コロナウイルスでのパンデミックよりも大切なフットケアの仲間を亡った経験が一番大きな出来事でした。「人はいつか亡くなる」と頭では理解していたものの、大きなショックでした。

これまでの10年間の細々とした毎年の活動の積み重ねを基に、これからの10年間はその実績をうまく生かしながら、次の転機に向けて、人・形を残せる10年間にしたいと考えています。

《NPO法人 足もと健康サポートねっと》とは？

全ての人に、苦痛と故障なく歩く喜びを知っていただくため、糖尿病患者をはじめ、足に悩みを持った方に対する支援事業や医療機関やその他の足に関する事業者の連携等の支援事業を行い、足に悩みを持った方へ適切な処置を行う。また足に関するより健全な医療や関連業界の進展を図り、より快適で健全な社会の創造、経済の振興に寄与することを目的とする団体。九州圏内の医療関係者（医師・義肢装具士・看護師・理学療法士など）と靴・インソール製造や販売を含めた靴業界、フットケアサロン業界などの連携を図ることで足（脚）に悩みを持った方々の問題解決を速やかに行えるようサポートする事を目的とした団体です。

《理事紹介》

理 事 長：竹内 一馬
医療法人たけうち　六本松 足と心臓血管クリニック 院長
福岡大学 臨床教授

副理事長：有薗 泰弘（有園義肢株式会社 代表取締役社長）
倉冨 英史（有限会社クラトミ 代表取締役社長）

理　　事：柳瀬 敏彦（医療法人社団 誠和会 牟田病院 病院長）
安西 慶三（佐賀大学医学部 肝臓・糖尿病・内分泌内科学 教授）
竹之下 博正（内科・糖尿病内科 たけのしたクリニック 院長）
松田 拓朗（福岡大学病院 リハビリテーション部）

監　　事：西田 壽代（足のナースクリニック 代表・日本フットケア学会 常任理事・日本トータルフットマネジメント協会 会長）

《社員・技術協力員》

井上 順子（内科・糖尿病内科たけのしたクリニック）
内田 重人（アンプロデュース株式会社 代表取締役）
坂 さとみ（医療法人心信会 池田バスキュラーアクセス・透析・内科）
中島 さとみ（フット専門店 a Sea 代表）
吉田 のぞみ（日本赤十字社 唐津赤十字病院）
石橋 理津子（佐賀大学医学部 形成外科 技術補佐員・足病 Ns Ishibashi メディカル office 代表）
鶴田 朋子（フットケアサロン フロムペディ 代表）
服部 直和（特定医療法人順和 長尾病院 専務理事）
服部 文忠（特定医療法人順和 長尾病院 理事長）
岡橋 信浩（足病変予防研究所 代表）
下川 敏弘（社会医療法人喜悦会 那珂川病院 理事長）

《NPO法人 足もと健康サポートねっと》主な活動履歴

これまでの活動してきた内容に関して、QRコードにアクセスして頂けると、当NPOのホームページの「活動履歴」へジャンプします。

2009年～2014年　2015年～2019年　2020年～最新

《NPO法人 足もと健康サポートねっと》今後の活動予定

■ 2022年10月 9日（日） 第4回 フットケア・足病医学会九州・沖縄地方会 市民公開講座
■ 2022年10月23日（日） 六本松健康ウォーク
■ 2022年12月15日（木） 第5回 六本松フットケアミーティング

新型コロナウイルスの影響により予定変更の可能性があります。

●市民セミナーや相談会の開催
●定期的な勉強会・報告会の開催
●ウォーキングイベントの開催
●フットウェア・フットケアの啓発活動
●フットウェアの開発や研究
●足に関する学術活動の推進
●足に障害があっても快適に過ごせる環境を整備する
●「寝たきり老人を作らない」運動の提案

編集後記

新型コロナウイルスの対応に振り回された昨今、行動制限を余儀なくされ NPO活動も縮小せざる終えない状況に。しかしコロナ禍だからこそ創意工夫で新しいアプローチ方法を生み出す事ができた。即時、変化に適応する為にはチームの協働は不可欠である。（編集長：松田拓朗）

賛助会員・サポーター募集中!!

詳しくは、TEL 092-401-5755（アンプロデュース株式会社）までお問い合わせ下さい。

FOOT LIFE GOOD LIFE Vol.9
発行元：NPO法人足もと健康サポートねっと　発行日：2022年10月1日
〒810-0035 福岡市中央区梅光園1丁目1-11　TEL.092-707-3828　http://ashimotokenko.com

副理事長 有薗 泰弘（有園義肢株式会社 代表取締役社長）

パンデミックを逆手に

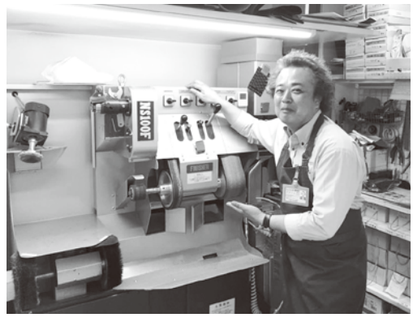
なんと言ってもコロナが私にとって大きな転機になったと考えています。しかし、このパンデミックな状態であっても悪いことばかりではなかったです。皆さんにも何らかの良い変化もあったのではと思っています。例えば、以前は仕事で外回り（各病院、医療施設など）をしていても、必ず会社に一旦戻ってから帰宅するのが通常でしたが、現場から自宅へ直帰することが容認されるようになったり、会議もパソコンを使ってリモートで開催、参加できるようになったりなど、時間の使い方に大きな変化がありました。この変化はプライベートに良い影響を与えてくれたと、皆さんもご理解いただけるかと思います。その他にも、弊社もデジタル化が進み、デジタル採型機器も最近導入することが出来ました。この機器導入のきっかけもコロナの恩恵であると考えています。

このコロナを逆手に、お客様と社員が満足できる様々な新しい取組みを考案して、より良い方向へ向かって行きたいと考えています。そして10年後に「10年前、あんなことあったよなぁ～。だから今があるんだよなぁ～。」って思える日が来ることを願っています。

副理事長 倉冨 英史（有限会社クラトミ 代表取締役社長）

幸せを考え直す

これまでの10年間は、弊社ならびにNPOの会社組織を考えた取組みを中心に色々と頑張ってやってきました。しかし、コロナの影響を大きく受け、苦しい時期を経験し様々な事を考えコロナ禍の日々を過ごしました。そんな中、経営や活動を発展的に進めて行く事を考えると、お客様の目線に立ち何をやるべきなのかという事を時代に合わせて判断・行動するのが重要だと考えるようになりました。しかしながら、パンデミックを経験し「自分自身の幸せが仕事の延長上に存在しないと色々な事が上手く進んでいかない。」という事の大切さにも気づかされたと感じております。



良くも悪くも目まぐるしく状況が変化する今の世の中、「何もなく平和に一日が終わる」ことがどれだけ贅沢な事であったのかを強く実感できるようになり、「これが自分の幸せなのかもしれない。」と思うようになりました。これからの10年間は「お客様の生涯歩行」に貢献できる環境に感謝し、技術者としての研鑽と個人としての平穏を重ねて行きたく思います。

社員：技術協力員 中島 さとみ（フット専門店 a Sea 代表）

若い世代にフットケアをもっと知って欲しい

10年前と比較すると明らかにフットケアに携わる人が増えたと実感しています。セラピストで考えると医療系、美的などの分野関係なくフットケアに携わる仲間が増えたことそのものが嬉しく思っています。

しかし、増えた仲間の多くは 35歳以上のセラピストが多い印象で、20代などの比較的若い年齢層の新しい仲間が少ないと感じています。

今後のフットケア・セラピストの継続発展可能な状況（SDGs）を創出する事を考えると、もっと若い人を巻き込んでいきたいという思いを持つようになりました。このフットケア、セラピスト分野を永続的に維持する為にもこれからの10年間は、その裾野を広げる取組みが私の課題と使命であると感じております。

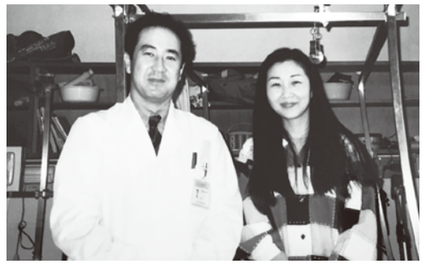
『 吉田 恵 』と『足もと健康サポートねっと』

今回、当NPO発展に大きく影響をもたらしたコアメンバーであった『吉田 恵』の半生を紹介すると共に、NPOでの担当した役割・活動などについて紹介させて頂きたいと思う。

吉田　恵(以下、吉田)は、当NPOの前身「足ネットワークプロジェクト（通称：足ふぇち会）」からのメンバー。「NPO法人　足もと健康サポートねっと」の創立に尽力した立役者の一人。NPO会報誌「FOOT LIFE GOOD LIFE」の初代編集長も務め、我々が2019年に出版した著書「生涯歩行のすすめ　今日からはじめるフットケア!／梓書院」の好機を創ったのが吉田であった。

自分らしく生きる

OLをしていた20代の頃の吉田は、夢や将来のことなど深く考えもせず休日は仲間とアウトドアやテニスなどの好きな野外活動を楽しみ、仕事・プライベート共に充実生活を送っていた。しかし1996年、吉田は飲酒運転の車に撥ねられる事故に遭遇し左下肢切断となる。



▲ 松田先生（元 九州大学病院）と一緒に（1999年）

その後、事故の後遺症により4年間に渡り入退院を5度繰返し、9回にもなる手術を経験する事となった。1999年、7ヶ月間の入院生活を終えて仕事に復帰するが骨髄炎で再入院となり2年間の休職となる。その間、自分に出来る仕事、障害のある身体で「自分らしく生きる方法」を模索する事となる。

1996年の事故が人生の転機となり、その12年後の2008年、足長や足周を計測し顧客の足に合う靴を提供する婦人靴店「shoe closet PASSO& (シュー クローゼット パッサンド)」を開業するのであった。（つづく）

文：理事・編集長 松田拓朗

プロフィール 吉田 恵（よしだ めぐみ） 1967～2016年
福岡市出身。婦人靴店「shoe closet PASSO& (シュー クローゼット パッサンド)」代表。
NPO法人 足もと健康サポートねっと 理事。NPO 会報誌「FOOT LIFE GOOD LIFE」の初代編集長。